

生き物を地域の架け橋に ～高校農場を拠点とした「ミニ生物多様性センター」の構築とネイチャーポジティブの実践～

活動のきっかけ

「Flowers」は、もともと花育活動や希少野生植物の栽培技術の開発を行っていたプロジェクトチームでした。しかし2019年からのコロナ禍で校外の活動に制限がかかったことがきっかけとなり、2020年からJ-GAP認証取得に向けた校内の生き物調べを開始しました。調査1年目で770種の野生生物の生息を確認しました。何の変哲もない都市化が進むごく普通の農村環境にある学校農場ですが、生物相がかなり豊かであることが分かりました。県レッドリスト記載種も28種も見つかりました。そこで、地域に向け、生物多様性の普及活動を行うことにしました。



地域と生物をつなぐネイチャーポジティブ活動

奈良県立磯城野高等学校野生生物目録の完成

2020年4月から2025年3月までの野生生物調査を行い、調査成果を「奈良県立磯城野高校野生生物目録」にまとめました。786種（うち県レッドリスト28種）を確認しました。また、本目録は、奈良県環境森林部長に提出しました。

磯城野高校いきもの観察会の開催

2024年からは卒業生チーム「Seeds」も加わり、自校で「磯城野高校いきもの観察会」を2～3ヶ月間隔で開催。地域の生物多様性普及と高校農場のネイチャーポジティブ化を推進しています。校内に「田んぼの水族館」も設置しました。

生物多様性の主流化を目指して

生き物調べサポーター活動

観察会を自校で開催する前、2021年から、生き物調べの技術を活かし「生き物調べサポーター」として県内各地の観察会を年3～4回支援しています。

バタフライガーデンの設置

2021年から最寄り駅や町内施設に「蝶から広める生物多様性」をテーマとしたバタフライガーデンを普及しています。幼稚園や小学校には蝶図鑑も配付しています。近鉄西田原本駅と町役場は高齢者が日常管理を行う「福祉交流花壇」とし、高齢者の健康増進につなげています。



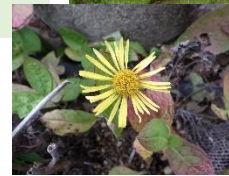
活動の成果

【観察会】「磯城野高校いきものの物観察会」と農場のネイチャーポジティブ化

786種の生物相調査を活かし、高校農場を中心に観察会を昨年3月から今まで9回実施しました。また、県絶滅危惧種のナガオカモノアラガイや国内4例目となるケショウオカモノアラガイ（仮称）の生息地の保全も始めました。1回の観察会には30名ほど参加いただいております。また、最近はリピーターも増えています。

【外来種対策】梅酒漬け梅や廃段ボール片を活用したジャンボタニシ被害抑制

観察会で外来種をテーマに取り上げ、参加者と一緒に廃棄物を活用したジャンボタニシによる水稻苗の被害抑制試験を行っています（奈良新聞や日本農業新聞で報道されました。Yahooニュースでも配信されました。）。参加者と一緒に水田生態系について考える機会になりました。



【多様なセクターとの連携】県・町・企業

○広報

奈良県環境森林部景観・自然環境課 奈良県食農部農村振興課 田原本町
奈良県農村地域づくり協議会 奈良県土地改良事業団体連合会

○観察会

橿原市昆虫館 橿原市昆虫館友の会 県レッドデータブック改訂委員会の先生方

○バタフライガーデン

近畿日本鉄道株式会社（花壇） ハウス食品工業株式会社（花壇で使用する麻袋：HPでも紹介）

ワキ製薬株式会社（花壇の土壌改良材：ミミズ糞）

橿原市昆虫館（花壇の土壌改良材：甲虫類の糞）→試験結果が良好なので橿原市昆虫館でも利用開始

近隣の幼稚園・保育園・小学校（バタフライガーデンの設置）

地域の高齢者（バタフライガーデンの管理：高齢者のフレイル予防）

【持続性】卒業生による「Flowers」支援チーム「Seeds」の結成

高校を卒業したら、そこで活動は終了ではありません。卒業後も活動を継続するために「Seeds」を結成し、大学や専門学校の学びを在校生「Flowers」に還元、「総合知」の学びが広がっています。

